

授業科目名 (英文表記)	経営史 (Business History)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	長廣 利崇		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	① 6月19日(土) 13:00~17:00		
	② 7月10日(土) 13:00~17:00		
	③ 7月24日(土) 13:00~17:00		
【授業のねらい・概要】			
この講義では、江戸時代から高度経済成長期までの日本を中心とした企業経営の歴史について検討する。現代の企業の戦略や組織形成を見る際、歴史の視点が必要になってくる。この理由は、現在が過去の蓄積によって成り立つからである。従って、日本の大企業のみならず中小零細企業、企業家などの活動を検討することが重要となってくる。とりわけ、この企業はケース・スタディの方法によって、個別企業や企業家の活動をひとつひとつ検討する。			
【授業計画】			
第1回：大衆消費市場を目指した企業経営の歴史			
近世の大都市である江戸、戦間期の大都市、高度経済成長下のマス・マーケティングなど時代を問わず大衆消費市場を目指した企業戦略は存在した。この戦略を形成したアメリカの事例を最初に検討し、その後、日本における企業経営の特長を学ぶとともに、現在への応用の如何を討論する。			
第2回：中小企業・産業集積			
第1回で検討したのは主に大企業であったが、戦前期日本を主とした中小企業の歴史を検討する。はじめに中小企業に関する経済理論を学んだ後、戦間期の泉南の織物産業などを考察する。また、中小企業の成長に必要な策を討論する。			
第3回：企業家の歴史			
企業家とは新たな事業を起こす「起業家」のみならず、従業員として新たなイノベーションを起こす「社内企業家」も存在する。はじめにシュンペーターなどの企業家に関する経済理論を検討した後、企業家の輩出条件やその活動に関して、松下幸之助などの著名な企業のみならず、無名の企業家の動向を探る。また、現在における企業家の輩出条件を討論する。			
【到達目標】			
事例として取り上げた日本の企業や企業家の動向を理解すること。さらにこれらのケース・スタディを用いて自分の主張を提示すること。			
【成績評価方法】			
議論への参加状況(40%)、小テスト(30%)、最終レポート(30%)による。			
【教科書】			
適宜、配布する。			
【参考書・参考文献】			
宮本又郎他編「1からの経営史」碩学社			
【履修上の注意・メッセージ】			
討論をする授業となりますので、積極的な発言をお願いします。なお、コロナウィルスの状況によっては、オンライン・オンデマンド型とオンライン同時双方型を組み合わせた授業になることもあります。			
【履修する上で必要な事項】			
特になし			
【受講を推奨する科目】			
なし			
【授業時間外学修についての指示】			
配布された文献がある場合は事前にそれを読むこと。			
【その他連絡事項】			
※基本的には対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。			